

# 武田一族の活躍と峡東在地の武士

笛吹市

鎌倉時代のはじめ、將軍源頼朝に信頼された甲斐源氏は、石和御厨を本拠とした信光であった。しかし、信光からはじまる石和流武田氏は、室町時代の康永2年（1343）、政義が合戦で討ち死にし没落する。その後、武田氏の惣領と甲斐国守護は、信光の孫信時にはじまる流れに移る。この信時流が、のちに晴信（信玄）へとつながる系統である。現在の峡東地域には、信光の時代から信虎が甲府に居所を移すまでの武田氏の記憶が残されている。



②⑧ 信虎誕生屋敷



はったけごしゆいんやしき  
②③ 八田家御朱印屋敷

武田家の財産管理を行っていた蔵前衆・末木家の一族である八田家の屋敷跡。北側と東側の一部に土塁が残る。書院は県指定有形文化財。



②③ 八田家御朱印屋敷

たけだのぶなりやかたあと  
②④ 武田信成館跡（清道院）

甲斐国守護の武田信成の居館跡は、清道院の境内とその周辺にあたる。土塁や堀の跡が残っており、遺構を確認できる山梨県最古の守護館とされる。

いんやまじょうあと  
②⑤ 小山城跡

穴山氏（穴山伊豆守）の居城とされる。天正壬午の乱では、徳川家康が都留郡の北条軍を監視するために使用した。御坂城を出陣し、鎌倉往還を下りてきた北条氏忠らの軍勢を、家康軍は小山城から出て黒駒で撃破している。四方が土塁と空堀で囲まれ、東側と南側の二か所に虎口が残る。笛吹市指定史跡。

かんのんじ  
②⑥ 観音寺

天台宗の寺院であったが、応安年間（1368〜75）に、武田信成が七堂を修造し、臨済宗に改めた。本堂には、信成と子の信春の位牌が安置されている。



甲斐源氏の流により、修理した。

鉾衝神社  
龍安寺

武田信玄が祈願所とした。



②⑤ 小山城跡

たけだのぶしげやかたあと  
②⑦ 武田信重館跡（成就院）

信重の父、信満は、応永二十四年（1417）上杉禪秀の乱で禪秀側に加担して自害。永享十年（1438）、京都にいた信重は守護として帰国がかなう。死後、子の信守が菩提寺として館の一角に成就院を建立。境内に信重の墓（笛吹市指定史跡）がある。



②⑦ 武田信重の墓

のぶやうたんじょうやしき  
②⑧ 信虎誕生屋敷

岩下越前守の館跡で、越前守の妹が信虎を産んだ場所とされる。発掘調査で、建物の柱の跡、溝などが見つかっている。

いさわはちまんぐう  
②⑨ 石和八幡宮

建久三年（1192）、石和五郎（武田信光）が甲斐国守護を命じられ、石和御厨に本拠を置くにあたり、鎌倉の鶴岡八幡宮を勧請したものと伝えられる。信虎が館を移す際に甲府に移され、府中八幡神社となった。